

看護基礎教育課程における学生の職業的アイデンティティの変化と教育的支援

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
森崎 由佳

1. 問題意識

近年、医療の高度化や専門化、在宅医療の推進、セルフマネジメント意識や健康意識への高まりなど、社会状況が変化するに伴い、看護職に求められる役割も専門化し大きく変化してきている。このような変化の中で、プロフェッショナルな看護師としてのアイデンティティの形成は必要不可欠と考える。また、看護師の職業的アイデンティティ形成には基礎教育の影響があり、看護基礎教育課程において学生の職業的アイデンティティの形成について検討することは意義深いことであると考えられる。

2. 研究目的

本研究では、第1段階として職業的アイデンティティ尺度を用いた質問紙調査で、職業的アイデンティティ得点を測定し、3年間の変化とその要因に関する概要を明らかにしていく。第2段階として、個別なインタビューにより、職業的アイデンティティ形成のプロセス・低下する要因・上昇するきっかけを明らかにする。第3段階として、質問紙調査とインタビューで得られた内容を総合し、職業的アイデンティティの変化とその要因について考察し、学生の職業的アイデンティティ発達のための教育的支援について明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

研究1では、職業的アイデンティティ尺度を用い、その変化のプロセスを探索するため、卒業年次の学生に回想的に擬似的縦断的な質問紙調査を行った。調査の対象者は、教育課程2年課程3年課程を併設する看護専門学校3校の3年生計198名(女性169名 男性29名 平均年齢25.0歳)。研究2では、半構造化インタビュー法により実施した。インタビューは研究1の対象者の中から6名行いそのうち5名を分析対象とした。

4. 結果と考察

看護基礎教育課程における学生の職業的アイデンティティ変化は、入学時に高く2年次には低下し3年次に再び上昇するという全体的特徴が明確になった。入学時に期待していた気持ちと意欲が2年次に低下するのは、学習方法への困惑や実習での危機がその要因となっていた。その後、危機を乗り越えることで3年次には職業的アイデンティティが再び上昇している。このことは、表面的に見れば1年次と3年次は同様なアイデンティティ得点であるが、単に1年次の状態に戻ったのではなく、2年次の危機の体験で学生の価値観が変容し看護観を確立させていた。職業的アイデンティティの質の変容を起こしているということが示唆された。また、学生が体験する職業的アイデンティティの変化のプロセスは、「学習方法の確立」「実習での危機と危機への対処」「自分への自信」「看護観の明確化」であることがわかった。このプロセスを支える教育的支援が必要となることが示唆された。教育的支援は、第1には、入学後早い段階でのオリエンテーションやガイダンスでの導入教育が必要である。第2には、2年次の実習や専門分野の学習で直面している危機への対処である。実習では、実践を通して学ぶことで、実感した学びにつながりそれが自信へとなるよう支援していくことが重要である。危機を乗り越えることは成長につながり、職業的アイデンティティが確立されていくと示唆された。